

臣波内外乃政乎取持天勤仕奉已夙夜不懈又皇太子乃舅氏奈見其情操爾幼主乎寄託倍然則少

王乃未親萬機之間波攝政行事乎許近久忠仁公乃如保佐朕身久相扶仕奉下略○

三代實錄陽貞觀十八年十二月甲辰朔右大臣基經抗表辭攝政言伏奉去月二十九日傳國詔命

曰少主未親萬機之間臣基經攝行政事如忠仁公德崇功大仁義兼資况先帝德文之親舅陛下清

外祖人望皆歸官齒既貴陛下知其元老專俾攝政天下萬民僉以為宜今臣年出不惑性猶童蒙職至

大臣効無匡濟朝夕流汗責深罪重夫代天治民者人君也導君從天者人臣也而詔命曰比年災異仍

見此復重臣罪責也漢代以災異免三公之官臣所尤可懼也臣平生備員之日陛下猶引過於一人臣

非常受寄之時今上何明德於四海蹇驢既疲坦途况雲巖不知遠近乎短檝無利夷浪况淵水不測邊

涯乎任重道悠不知所處今公卿大臣在位者多皆是有德良人陛下察而用之亦亡叔忠仁公屬纊之

夕重託扶持陛下莫愆始終之教臣今緣詔命離去仙砌攝事朝廷進慙失教退恐違命臣始謂穆遊之

轉翠華誰知堯心之脫黃屋臣將隨陛下為雲中之吠犬何更歸城闕為華表之鳴鶴臣之至誠既其如

此某臣誠惶誠恐頓首頓首死罪死罪謹言不許矣朝又見本

神皇正統記光孝天皇諱是時康小松の御門とも申す中陽成をりぞけられ給ひし時攝政昭宣

公基藤原諸の皇子を相し申されけりこの天皇略中人主の器量餘の皇子たちになすぐれましま

しけるによりて即ち儀衛をとのへて迎へ申されけり略中踐祚のはじめ攝政を改めて關白

とすこれ我朝の關白のはじめなり漢の霍光攝政たりしが宣帝のとき政を還して退きけるを

萬機の政なほ光に關り白さしめよとありしがその名をとりて授けられにけり略中この御世

より藤氏の攝籙の家も他流にうつらず昭宣公の苗裔のみぞたしくつたへられにたる上は

光孝の御子孫天照大神の王統とさだまり下は昭宣公の子孫天兒屋根命の嫡流となりたまへ

り二神の御ちかひたがはずして上は帝王三十九代下は攝關四十餘人四百七十餘年にもなり